

# 「地域防災データ総覧―災害アンケート編」

財団法人消防科学総合センター

研究員 川 合 純

## はじめに

当センターでは、昭和 58 年以来、毎年度、「地域防災データ総覧」を作成してきているが(表紙裏参照)、平成 5 年度は「災害アンケート編」を刊行した。本稿では、その編集方針と全体構成及び活用方法についてご紹介する。

## 1. 編集方針

災害アンケートは、一般的には、被害状況や住民の要望などを把握したり、防災上の問題点を浮き彫りにしたりすることによって、現在または将来の防災活動施策に反映させることを目的とし、災害調査では必ずといってよいほど行われる調査方法である。しかしながら、いざ、新たに災害アンケート調査を実施しようという場合に、こういったケースにはこういった設問を行うとか、アンケート設計の手順を示したり、調査を実施する上でのノウハウなどを解説した文献は非常に稀であり、また、過去の災害調査報告書等から適切なアンケート例を探し出すのは、一層困難である。そこで本書は、地方公共団体の防災担当の方が新たに災害アンケートを作成する際の参考となることをねらいとした。

編集にあたっては、まず既存の災害アンケートを可能な限り収集し、これを災害種別、調査目的、質問事項別に9系統的に分類・整理した上で9学識経験者の協力を得て、より標準的な設問を選び出して配列し、注意事項を解説することとした。また、できるだけ災害調査の現場の声を紹介し、必要に応じて現在の学問的水準にもふれるように心掛けている。

## 2. 全体構成

全体構成と内容は以下のとおりである。

### 第一編「災害アンケートに関する基礎知識」

アンケートの理論と手法の概説である。

#### 第一章「本書のねらいと利用の手引き」

災害アンケートにまつわる問題点や編集方法から本書の利用方法について述べている。

#### 第二章「災害対策とアンケート調査」

災害対策におけるアンケート調査の意義について、研究者が災害情報に関する研究成果等を踏まえて解説している。

#### 第三章「アンケート調査の手順と方法」

アンケート調査の企画・設計から最終段階の分析までを一連のフローとして、順次、理論と実際について解説している。各節の

頭にフローチャートを示し、各頁の右端に用語を掲載して、理解の助けとした。

## 第二編「災害アンケートの実例」

アンケートの設問の実例を、新たに災害アンケートを作成する際に参考となるように配列している。対象災害は、概ね過去 20 年間に日本国内で発生した自然災害のうち地震・津波災害、風水害、火山災害、その他の災害であり、平常時の調査は住民の防災意識に関するものを対象としている。

### 第一章「アンケートの設計の実際と具体例」

アンケート調査においては、回答しやすくする設問構成の流れがあるので、過去のアンケート調査の代表 6 例を全編収録し、かつ、調査の目的と注意事項を解説して、参照できるようにした。

### 第二章「平常時に行う災害アンケート」

平常時に行われた災害アンケートを意識・知識・予想・情報・対策という事項別に配列し、解説している。ただし 9 警戒宣言対応の調査は対象地域や規制等が限定され、特別な工夫が必要であるため別立てとした。

### 第三章「災害後に行うアンケート調査」

既存のアンケート調査を災害種別ごとに、行動・意識・被害・情報・対策という事項別に分類・整理した上で、見開き 2 頁を原則として、左頁の頭に調査の目的と注意事項を解説し、続いて抽出した設問を配列し、右頁末には、各設問の出典を表示した。各設問には、それぞれの過去の調査・集計結果及び母数を掲載し、調査実態がわかるようにした。

### 参考資料・出典一覧表

巻末に、参考とさせていただいたわが国の主要な災害アンケート調査を各章ごとに一覧表示している。

## 3. 活用方法

本書は、全体を通読すれば災害アンケート調査に関する全般的な知識が得られるので、防災教育や研修用資料として、また研究活動の参考資料とすることができるが、実際にアンケート調査を行おうとしている方々には、以下により、一層効果的に利用していただけるものである。

- (1) 本書は災害アンケートのほぼ全般にふれているので、自ら調査を行う場合にも、調査会社へ実施を委託する場合にも、それぞれの調査目的、災害種別に応じた調査事項の漏れがないかなどの内容のチェックができる。
- (2) 設問を構成する場合、選択肢を作成することはたいへんむずかしいが、本書では、より標準的な選択肢を収録しているので、そのまま利用することが可能である。
- (3) 執筆者は、調査実績のある研究者や機関の関係者であるため、実際にアンケート調査を行ってきた経験や研究成果に裏付けされた具体的な解説を加えているので、各調査目的・注意事項の説明を読むだけでも有益である。
- (4) 調査現場の生の声を随所にコラム欄として掲載しているので、より実践的な苦労話や体験談を知ることができる。
- (5) 過去の調査結果と母数を掲載しているので、調査設計の目安となるであろう。

### おわりに

従来このような角度から、災害調査の方法を整理したものは、あまり刊行されておられません。本書が、災害対策や研究のためにアンケート調査を行う際に、お役に立つことを確信しております。